

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 名張市立名張小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒518-0718
名張市丸之内55番地

E-mail : g01_e-nabari@nabari-mie.ed.jp

Website : http://www.nabari-mie.ed.jp/e-nabari/

児童生徒数：男子 162名 女子 143名 合計 305名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

〔1年生〕

- ・学校探検や1年生を迎える会で、上級生や先生に、学校について質問をしたり、一緒に遊んでもらったりすることを通して、コミュニケーション力を養うことができた。
- ・生活科であさがおやさつまいも・大根を育てることで、生長過程を知り、自然に親しむことができた。
- ・国語「どうぶつの赤ちゃん」や道徳「わたしが赤ちゃんだったころ」の学習で、命の大切さや自尊感情を育むことができた。
- ・「冬カレンダーづくり」や「昔から伝わる遊び」を通して、日本の伝統や文化を知ることができた。

〔2年生〕

生活科で、さつまいもづくりをした。学校近くの苗やさんに来ていただき、植え方を教わった。学級園に苗を植えた後、水やりと草引きの世話をしてみんなで育てた。収穫して、つるはリース作りに使用した。さつまいもは、スイートポテトを作ってみんなで食べた。さつまいもの跡地には、大根を植えて育てた。育てた大根は、牛すじ大根を作って食べた。野菜が育っていく様子を常に観察し、食べ物を大切に作る気持ちをもつことができた。

町探検では、自分たちの住んでいる町をみんなで行った。それぞれが、自分の家の近くにあるものを紹介し、さらに名張の町に親しみをもつことができた。特に、奥田牧場には、中に入って見学させてもらった。自分たちが日頃牛肉として食べている牛が育てられている様子を知ることができた。

〔3年生〕

校区探検を行い、地域の施設や商店などを見つけてきた。地域で働く人々の姿や声を聞き、名張の町のよさを知ることができた。また、自分たちは地域の中でたくさんの人に見守られている存在だと気づくことができた。その後、校区探検を通して気づいたことを周りの人に伝える方法を子どもたちで考え、「かるた」にまとめて集会などで地域の人に伝えることができた。

〔4年生〕

・ 富貴ヶ丘浄水場の見学

子どもたちが学校や家庭で毎日使っている水は、どこでどのように作られているのか学習し、水について考えることとした。そこで、4月22日(火)に、富貴ヶ丘浄水場を見学して、その様子を学んだ。浄水場では、水をきれいにする仕組みについて話を聞いた後、6つのグループに分かれて水を浄化する実験をした。その後、外にある各設備やろか池などを見学し、名張市の水がここで作られている様子を知ることができた。

・ 伊賀南部クリーンセンターの見学

社会科学習「ごみのしまつと活用」では、自分たちや家庭から出るごみのゆくえを調べた。そして、最終的に行く場所は、「伊賀南部クリーンセンター」で

あることが分かり、5月27日（火）に、伊賀市奥鹿野にある伊賀南部クリーンセンターを見学し、実際にごみの処理の仕方を見てごみ処理の様子やごみのリサイクルについて理解することができた。（学校から遠いので、行き帰りはバスを使った。）

・ ごみ収集の様子を見学

伊賀南部クリーンセンターの見学に続き、学校のゴミボックスのごみを収集の様子を見学した。ごみ袋をパッカー車の後ろに入れる様子を間近で見た後、おじさんからごみを収集しているときに気をつけていることや、ごみを出すときに気をつけてほしいことなどについて話を聞いた。「パッカー車が来たことが分かるように鳴らしている」ことや雨の日も暑い夏の日、雪の降る日も集めていることに気づくことができた。

〔5年生〕

自分たちと社会のつながりを考えるために仕事調べを行った。自分たちがどんな仕事とつながり、支えられているかを考え、個々に調べる職業を決めた。仕事の内容を調べ、実際にその仕事に従事している方がどのような思いを持っているのか手紙によるインタビューで調べた。調べて分かったことを壁新聞としてまとめた。

返信された手書きのメッセージを読むことで、自分たちと社会のつながりを実感し、また、仕事に従事するということは、それぞれの形で社会とつながり、誰かのために働くということだと気付くことができた。また、そうやってわかったことを中心に伝えることができた。

〔6年生〕

水口小学校との交流

昨年6月14日、創立140周年を迎え、卒業生や地域の方たちと一緒に「校歌を歌う集い」を開いた。集いに向けて、校歌を作詞した「巖谷小波」さんについて調べたり、校歌の歌詞の意味を考えたりした。偶然、地元の小島敏孝さんから、同じ「巖谷小波」さんの作詞した校歌を歌っている滋賀県の水口小学校のことを教えてもらい、さらに、水口小学校も140周年の記念だと聞き、親しみを感じて、ビデオレターを送ることにした。内容は「校歌を歌う集い」の様子や、名張市や名張小学校の紹介、そして校歌を歌ってメッセージを届けた。

その後、水口小学校から返信のビデオが届いた。そのビデオには、水口小学校の紹介とともに地域の伝統的な行事や水口の歴史についてもおさめられており、ビデオを見た子どもたちは、水口小学校はもちろん滋賀県や琵琶湖についても興味を持ち始めた。

5年生の社会科の教科書には、「国土の開発と自然」という単元がある。その中で、琵琶湖の自然を守るために人々が努力して取り組んでいることや、小学生が環境について学ぶ「フローティングスクール」などについての内容がある。ビデオレターを見た子どもたちにとっては、この学習内容が興味深く感じられ、意欲的に学習することができた。またもっと知りたいという疑問も持ち始めた。

このことを踏まえ、本年度は修学旅行を計画するにあたり、水口小学校との交流をさらに深める活動を取り入れ、実際に水口小学校を訪問し、人やものとの貴重な出会いを体験したいと考えた。またこの出会いが形式的なものに終わらないよう、事前に水口小学校と何度も打ち合わせをした。

交流の内容はそれぞれの学校の特色を生かしながら、一人一人のつながりが少しでも深まるように構成した。

〈リーフレット作り〉

ビデオレターでは、名張の紹介はしたものの口頭で伝えたのみであったため、国語科の「ようこそわたしたちの町へ」の学習を生かし、リーフレットを作ってプレゼントしようということになった。そこで、グループに分かれ、名張の観光地や校区の見所、大切にしている校内の人やものを、総合の時間や放課後などに自分たちで取材することにした。グループに分かれて積極的に取材活動をしたことを、それぞれのグループがデジカメで撮った写真を活用しながら、きれいに見やすいリーフレットを約40部作った。

〈小グループでの交流〉

6人グループで名刺交換と自己紹介をした後、水口小学校の児童一人一人から話を聞いた。内容は、5年から関心のあった琵琶湖のことや水口の主な行事やその由来、そして金閣寺や東大寺などの話だった。すでに修学旅行に行き歴史学習をしてきている水口の子どもたちから、今からそこを訪れる名張小の子どもへのメッセージだった。

交流の内容は他に、水口小学校の児童による「水口ばやし」の演奏やそれぞれの校歌の交流などもあり、短い時間ではあったが有意義な時間が過ごせた。そのことは、バスまでの帰り道、小グループで会話しながら歩く子どもたちの笑顔によく表れていた。旅行後、水口小学校の温かいもてなしに感動した子どもたちは、心を込めてお礼の手紙を書いて送った。その後も、何度か名刺交換をした友達との手紙のやり取りや近況を知らせる写真などの交流を行うことができた。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他(修学旅行)